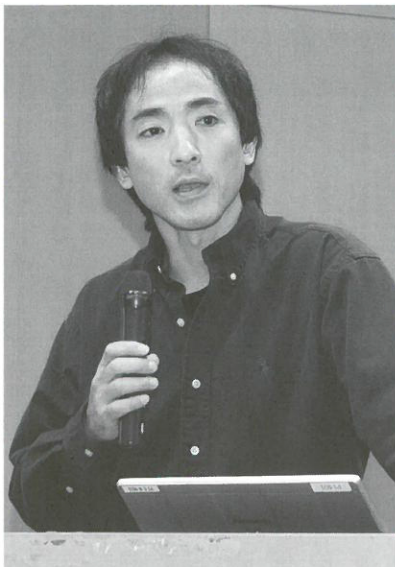


島根産食品の米国販路拡大へ健康面や安全性もっと強調を

現地の専門家招き松江でセミナー

米国の食品市場に関心を持つ、島根県内の食品加工会社などを対象にした、販路開拓セミナーが、松江市で開かれた。米国の食品業界に詳しい県内出身の専門家ら3人が、最新の市場動向や販路開拓へのポイントなどを解説。日本人気や健康食品ブームから、米国市場で県産食品の強みを生かせる利点をアドバイスした。

近年、島根県の後押しもあり、米国の食品市場への参入を目指し、日系人向け市場を中心とした食品展示会などに参加する県内の食品



米国市場への島根県産食品の参入などを語る藤井康寛氏(左)、商品名称などの課題を語る杉原泰三氏(右) | 松江市朝日町、松江テルサ

加工会社が増加。ハワイや西部のオレゴン州でスーパーを展開する日系企業2社が開催する「島根フェア」や食品展示会などで高い評価を得ている。

こうした動きを支援するため、県や日本貿易振興機構(ジェトロ)松江事務所は、本年度も商談会などを展開。米国でのさらなる販路拡大には、非日系市場の開拓が不可欠な

ことから、今回のセミナーを企画した。松江市朝日町の松江テルサであったセミナーには、県東部を中心に食品加工など20社の関係者ら約40人が参加。

講師のうち、米国での食品会社勤務などを経て、ロサンゼルスでコンサルタント会社代表を務める藤井康寛氏(松江市出身)は、県産食品の対象市場として、日本食ブームなどから、日本食レストランや健康食など5つの市場ジャンルを提示。韓国の味付けのりが健康的なスナ

ック菓子としてヒットした例から、市場参入に向いている商品として、のりやしとうめなどを挙げ、「島根産は高品質。もっと特長や魅力をアピールするべきだ」と呼び掛けた。

ニューヨークでスーパー3店を展開する会社のゼネラルマネージャーの杉原泰三氏(益田市出身)は、日本の飲料メーカーの主力商品名が発音から「牛のおしっこ」という意味になり、名称を変更した例を紹介。商品、会社の名称や意味が米国人に伝わりにく

政府労災保険に上乗せ補償

法人向けの業務災害保険 米子信金が取り扱い開始

米 子信用金庫(米子市東福原2丁目、青砥隆志理事長)は9月から、AIU損害保険(株)の業務災害総合保険「ハイパー任意労災」の取り扱いを始めた。法人向けの損害保険で、従業員の業務中の事故など、備えたい事故の補償に比べてオーダーメイドでプランを設定できる。

ハイパー任意保険は、業務中の事故などに備え、政府労災保険に上乗せして補

い製品が多く、工夫を求めた。健康食品向けのコンサルタント会社代表で、ジェトロNY事務所のコーディネーターを務める太田あや氏は、米国の健康食品市場の現状を解説。島根産食品は無添加商品が多く、健康食品市場への参入に向いているメリットを挙げ「パッケージや食べ方に工夫を施し、安全安心やヘルシーさをもっと生かしてほしい」と指摘した。

講演後は、参加者と3人が質疑応答を通じて意見を交わした。

填する商品。製造業の場合、構内での協力会社や人材派遣会社の従業員、建設業では、下請け企業や現場警備員も含まれる。精神疾患による自殺、過労死も補償の対象となる。

保険料は、事業内容と売上高で算出。労災認定を待たずに保険金の支払いを受けることができる。同金庫が代理店となり、全16店舗で取り扱っている。